５，今年度の重点課題（学校アクションプラン）

<table>
<tr><th colspan="3">令和２年度　富山南高等学校アクションプラン　－１－</th></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">学習活動（教科指導全般の充実）</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">教科指導の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・次期学習指導要領では、主体的･対話的で深い学びに向けた授業の改善が求められることから、指導内容や指導方法について各教科部会を中心に研修しているところである。思考力問題への対応、表現力の向上について、授業研究を活発化していく必要がある。
・学習指導研修会や互見授業を全職員により行い、資質向上を図るとともに、研修内容を充実させ､その成果を学習指導に活用できるよう努力しているところであるが、受験対策期である３年生２学期でのアンケートの実施率が低く、実態を十分に研究し指導に反映できていないのが現状である。
・週末や長期休業中に課している課題、自主的な学習を、生徒がいかに主体的にかつ具体的に計画を立て、取り組むかを指導し実践させるため、学習に興味を持たせることが肝要である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①互見授業の年間実施回数</td><td>②授業アンケートの実施回数</td></tr>
<tr><td>２回以上</td><td>２回以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">互見授業
・年間４週程度（１学期２週、２学期２週）の実施期間を設け、積極的に実施するよう促す。
・１～２学期に関しては実施期間でなくても実施できることとし、直近の実施期間後の教科会議で意見交換を行う。
・公開授業など、他校で行われたものに関しても教科内にフィードバックする。
授業アンケート
・７月および12月を基本のアンケート期間とし、実施を促す。
・ただし、単元の境など実施時期については柔軟に運用できるものとし、実施を奨励する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">令和２年度　富山南高等学校アクションプラン　－２－</th></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">学習活動（国際理解教育）</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">英語コミュニケーション能力の育成と向上および国際コースの活動の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">・授業を軸とし、さらに様々な活動（スピーチコンテスト、ボキャブラリーコンテスト等）を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。
・「国際コミュニケーション」を学校設定科目として設定し、自然な英語の聞きとり、英語でのプレゼンテーション、意見交換ができる英語力の育成に努めている。
・特色ある国際コースを主とした活動である「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」がより有意義なものになるよう、事前指導の充実に努めている。適した講師の招聘には苦慮している。
・GTECは２年生が７月受験時に755点以上77%で目標を達成した。
・令和元年度国際コース卒業生で英語検定２級以上を取得した生徒の割合は75%(内１名は準１級を取得)で目標を達成した。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成目標</td><td>①コミュニケーション能力をレベルアップした生徒の割合（GTEC４技能、英検）</td><td>②「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」への（希望者も含む）参加生徒の満足度の割合</td></tr>
<tr><td>GTEC　６９０点以上７０％（１年）
７５５点以上７０％（２年）
７９０点以上７０％（３年）</td><td rowspan="2">アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が併せて９０％以上</td></tr>
<tr><td>英検　（国際コース）卒業時の英語検定２級以上取得者５割以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・国際コースに限らず、全クラスで英語力の向上を目指す授業を行う。
・英語に関する行事を工夫して行い、生徒の英語に関する興味・関心を高める。
・定期考査や実力テストなどで４技能を測るテストを実施する。
・英語検定の受検を推奨する。</td><td>・「国際理解」、「英語活動」、「コミュニケーション能力の向上」等に関する講師を県内外問わず招聘する。
・「国際理解セミナー」及び「国際理解のための講演会」が、より有意義なものになるよう事前指導を十分に行う。また事後に振り返り（感想）をさせることで、今後の学校生活や進路選択に役立つようにする。
・満足度に関するアンケートを行い、より充実した行事になるよう工夫する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">令和２年度　富山南高等学校アクションプラン　－３－</th></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">学校生活（生徒指導の徹底）</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">全職員による生徒指導</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">・基本的生活習慣が身に付いていない生徒が一部見られる。特に遅刻・服装・マナー等の定着にやや欠ける。
・昨年度は交通事故が１２件発生。特に自転車による事故が多く、重大事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーに関する苦情も寄せられている。
・不審者による被害は大幅に減った。警察との連携を密にし対処している。
・ネットパトロールに指摘を受けた件数が４件報告された。個人情報の保護に対する意識を含み、SNS等の危険性に対する認識が薄いと思われる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①交通事故年間件数</td><td>②教職員による巡回パトロールの年間回数</td><td>③ネットパトロールに指摘を受ける件数</td></tr>
<tr><td>全体で５件以内
（２・３年生は各１件）</td><td>５０回以上</td><td>３件以内</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="3">・遅刻・ 服装・マナー等に関する指導は、教育活動全体の中で全教員が一丸となって行う。特に、月初め３日間の登校指導や、生活委員・生徒会が協力して挨拶運動を行う中で、生徒一人一人が主体的に自覚と責任を持った行動ができるように指導をしたい。
・交通安全教室等やＨＲ、生徒会を通して交通安全に関する意識の高揚を図る。また、毎月１回、サイクル安全リーダーとともに交通安全街頭指導を行う。
・本校周辺での不審者被害はほとんど起こらなかったが、引き続き、巡回パトロールを実施し、地域の防犯担当者及び警察との連携を図る。
・携帯・スマホの使い方や危険について生徒により作成されたネットルールを遵守させるほか、ネットトラブル防止教室や集会などの機会を捉えて指導を行う。
・達成目標に挙げた交通事故、ネットパトロールについては、生徒の安全に関わる事案であり、当然、発生件数０件を目標としている。</td></tr>
</table>

令和２年度　富山南高等学校アクションプラン　－４－		
重点項目	学校生活（保健指導）	
重点課題	防災への備えと疾病予防に対する自己管理の徹底	
現　　状	・近年、全国各地で大規模で甚大な被害を及ぼす地震や水害などの自然災害が増加しており、今後も東南海地震、県内の断層直下型地震、集中豪雨による大規模水害などが懸念されている。地震の少ない富山県に暮らす本校生徒の防災に対する意識は、個人差が大きいのではないかと予想される。 ・定期健康診断によると、各種治療カードを発行している枚数は、令和元年度では224枚である。対象生徒に対し治療を促しているが、回収された治療カードは30枚で13%でしかない。そこで、本年度も各種治療カードの回収率を高めるように働きかけ、早めに治療して、健康な生活をおくることができるようにする。	
達成目標	①防災に関するアンケートで 、自宅周辺の避難場所を知っている、災害用伝言ダイヤルの使い方を知っていると答えた生徒の割合。	②各種治療カードの回収率
	それぞれ50%以上	25%以上
方　　策	・避難訓練などの機会を通して防災の重要性を訴え、災害時への備えの必要性を理解させる。 ・防災に関するアンケートを行い、本校生徒の防災意識を把握する。 ・南苑祭で全校生徒に防災に関する情報を伝える活動を行う。 ・各種治療カードの啓発活動として、年間２回運動期間を設ける。 ・治療カード提出を呼びかけるポスターを掲示する。 ・保護者会の機会に、治療カード未提出者の保護者に治療に行かせるよう促す。	

令和２年度　富山南高等学校アクションプラン　－５－		
重点項目	進路支援	
重点課題	高い志を持ち進路目標の達成に取り組む生徒の育成	
現　　状	・国公立大学に進学したいと考えている生徒の割合は１・２年次で９割以上、３年次で８割以上になるが、具体的な進路目標をもった生徒の割合が低い。 ・学部学科を２年次１学期までに決定できる生徒の割合が少ない。 ・低学年から３年間を見通した学習・進路指導を成長段階に応じて、学年と協力し、情報を共有しながら実施し、生徒のそれぞれの意欲を持続させられるよう工夫している。	
達成目標	①高校生のための学びの基礎診断を利用した学習到達度（GTZ）を達成した生徒の割合	②年間の面接回数
	１月模試において総合B１以上の生徒の割合が 1年生は６割以上、2年生は５割以上 3年生は11月模試において総合B１以上の生徒の割合が5割以上	５回以上
方　　策	１　進路指導計画に基づく各学年の方針に従い、生徒との個人面接を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、具体的な目標を個々に設定させる。キャリア・パスポートを利用して、自己理解に努めさせる。 ２　学力検討会及び学年会を通して、教科と学年が連携して生徒の学習意欲を喚起し、学力の定着が図れるように努める。 ３　ＳＴ前の朝の時間を活用して、短時間に集中し、かつ継続して学習させる。 ４　普段の個別試験対策に加え、共通テストから個別試験の学習へよりスムーズに移行できるように努める。	

令和２年度　富山南高等学校アクションプラン　－６－		
重点項目	特別活動（ＨＲ活動、学校行事の充実）	
重点課題	生徒による主体的な企画・立案・運営	
現　　状	・昨年度のアクションプランにより、学年及びクラスでテーマを決めて討論したり、問題解決に向け意見交換したりするような活動が企画され、実施された。さらに継続することで定着を図りたい。 ・多くの生徒は、体育大会、南苑祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。さらに主体的な取り組みとなるよう、企画、準備段階から積極的に取り組ませたい。	
達成目標	①ホームルーム活動において、討論会など各学期１回(年間３回以上)計画、実施する。	①体育大会、南苑祭の満足度 それぞれ８０％以上 ②企画、準備段階での取り組み姿勢 「積極的な参画」　８０％以上
方　　策	・学期始めのホームルーム計画立案の際に具体例を提示し、ホームルーム委員やホーム長が中心となり､課題に対して一人ひとりが自分なりの意見や意思を持った上で、合意形成に向けた話し合い活動に臨むようにする。 ・実施状況等アンケート調査し、次回の計画等に生かす。 ・体育大会は生徒会執行部や体育委員、南苑祭は生徒会執行部や南苑祭実行委員が中心となって企画している。より多くの生徒が、様々な場面で参画できる機会を工夫することで、自主的、主体的な運営につなげる。 ・満足度アンケートで、意見を集約し、改善に生かす。	

令和２年度　富山南高等学校アクションプラン　－７－		
重点項目	特別活動（図書指導の充実）	
重点課題	読書習慣の定着と図書館及び図書資料の活用促進	
現　　状	・読書量の多い生徒もいる反面、読書習慣のない生徒がいる。昨年度１人あたりの貸出冊数は3.5冊であった。（H30年度 3.5冊　H29年度 3.0冊） ・図書館への来館人数は１日平均５５人であった。 ・本を主体的に読み、考え、表現する力が、十分についているとはいえない。 ・小論文や調べ学習の機会が増え、生徒自身が情報を選択しまとめることが必要になっている。しかし、生徒の図書検索力は十分とは言えない。 ・昨年度司書の先生がレファレンス（図書資料や情報を求めている生徒たちに支援する活動）をした数は６７回だった。	
達成目標	① レファレンスの数	②１人あたりの貸出冊数
	一年間に６０回以上	３冊以上
方　　策	・１学年での図書館利用指導を充実させる。 ・ＨＲや「総合的な学習の時間」での図書館利用の企画を提案する。 ・生徒図書委員会の活動を通して、読書の楽しさを体験できる場の設定を工夫する。 ・「としょだより」（生徒図書委員発行）と「Library」（図書部発行）を配布し、新刊図書案内や生徒の読後感等を掲載することによって、生徒の読書欲を喚起する。 ・領域や系統を決めて一つのテーマや内容に沿った関連図書を随時紹介したり、常設コーナーを設ける。 ・図書館資料を利用した授業や課題を通して、生徒が図書を検索できるように段階的に指導する。 ・公立図書館との連携や教科との連携を図り、図書館資料を充実させる。	